

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスまはる宜野湾志真志		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 12日		～ 2025年 3月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 12日		～ 2025年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 15名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の気持ちに寄り添った課題の提供を行える。	児童の「やってみたい」をヒヤリングする場を設け、実際に課題の中に取り入れることで、児童の課題への参加意欲を高められるよう配慮している。	保護者様からの意見を取り入れ事業所での課題を検討し、保護者様や児童に寄り添った事業所の運営を行っていく。
2	心理専門職員が多く配置されており、応用行動分析を行い問題行動を起こす要因を見つけることができ、要因を取り除く、解消する、その要因に至らないよう配慮するなどの対応を考えることができる。	心理専門職員だけでなく全職員が、要因の理解に努めアプローチなど共通認識を持って支援にあたることができる。	保護者様に対し問題行動の要因の共有を行い、統一した支援を行っていくこと。
3	1単位、2単位と事業所が分かれており併用することで、静と動のアプローチができる。	情報共有をこまめに行い児童に合ったアプローチを事業所一丸となって考えている。	4月以降学年ごとで分けることになっているので、高学年事業所に移る際にスムーズな移行できるように情報共有や発達段階や学年に合わせた支援を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	わからない、どちらともいえないとの意見が多いように共有を図れていないご家庭がある。	併用児童が多く在籍しているため共有ができていないケースがある。	4月以降利用児童を学年分けを行い併用児童を減少させる。
2	職員間での情報共有ができていないことがある。	在籍職員が多く、また事業所が2単位に分かれているため、誰に共有をしたのか把握ができていない。	社内連絡ツールを用いて共有を徹底していくことにより伝達の漏れをなくす。
3	地域交流ができる機会が少ない。	週に一度公民館や公園での活動を行っているが、地域住人や児童との交流は少ない現状。	地域の方も一緒に参加ができるイベントの開催や改めて地域資源の見直しを行い活動の幅を広げていく。